

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0177100286		
法人名	特定非営利活動法人NPO社会福祉振興会		
事業所名	グループホームななかまど歌志内館		
所在地	北海道歌志内市字中村34-1 (電話) 0125-42-2121		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成20年10月17日

【情報提供票より】(平成20年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算 10.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造2階建て一部鉄筋 造り		
	2階建ての 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 ~ 28,000 円	その他の経費(月額)	15,000~30,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概(8月10日現在)

利用者人数	16 名	男性 4 名	女性 12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.3 歳	最低 69 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	砂川市立病院・勤医協神威診療所・中村歯科診療所
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな自然環境の中に立地する当事業所は、平成16年、以前スーパーであった建物を改築し開設したグループホームである。開設4年目を迎え、様々な地域交流や地域貢献を通して、認知症に対する住民の理解も深まり、地域に支えられ、協力を得ている。職員は、理念でうたっている、「利用者主体の生活と利用者一人ひとりの思いを大切にすること」を理解し、常に学ぶ姿勢を忘れず、利用者とのかかわりの中で得たケアの気づきを大切にしながら、日々意欲的にケアに取り組んでおり、今後更にケアの質の向上が期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価における改善項目はなかったが、日々の仕事の点検として自己評価の項目を活用し、ケアの質向上に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は、会議の場を通して、評価の意義を再確認しながら全員で話し合い、自己評価に取り組んでいる。また、自己評価の項目について、すでに取り組んでいる内容も明らかにしている。今後は更に、自己評価で話し合った内容を整理し、課題を明確にして、今後に向けての改善目標や取り組んでいきたい内容について、具体的な改善計画へと結びつけることが期待される。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議においては、事業所の活動報告や評価の結果、取り組んでいる内容などを報告し、助言を得ている。夏のラジオ体操の場所提供などは、会議の中での要望を受けて、実現した取り組みの一つである。また、会議の開催場所を利用者の生活空間(居間など)に設定することで、利用者も気軽に参加できるようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、個別に手紙・写真・金銭管理帳を家族に送付するとともに、事業所の運営や活動についても報告している。法人の方針として、緊急時に限らず、どんな些細なことでも家族に連絡・報告する体制になっている。苦情等の受付に関して、事業所内の担当窓口や外部機関の申し出先を、サービス開始時に説明している。また、面会時等の何気ない会話の中から、家族の意見・要望・疑問などを汲み取り、検討・対応することでケアの質の確保や運営の改善につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、清掃活動・敬老会・盆踊り・新年会などに、利用者と共に参加している。また、雪解け時期には事業所近くを流れる川の清掃を行い、夏休みにはラジオ体操の場所として事業所の庭を提供するなど、地域へ貢献するとともに、様々な世代の地域の人々と交流できるよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域での生活、馴染みの暮らしの継続、地域との交流など、地域密着型サービスとしての役割を反映し、また、日々利用者にとって「今、何が必要か」という視点を大切にして、運営推進会議の中でも助言を受けながら、理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に、職員で復唱している。またその中で、理念を日々のサービスに反映するよう具体的に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、清掃活動・敬老会・盆踊り・新年会などに、利用者と共に参加している。また、雪解け時期には事業所近くを流れる川の清掃を行い、夏休みにはラジオ体操の場所として事業所の庭を提供するなど、地域へ貢献するとともに、様々な世代の地域の人々と交流するよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議を通し、自己・外部評価の意義を職員で再確認しながら、自己評価に取り組んでいる。前回評価での改善項目等はないが、日々の仕事の点検として自己評価を活用し、新たな取り組みを実践しケアの質向上に努めている。今後は更に、今回の自己評価で話し合った内容を整理し、今後に向けての改善目標や取り組みたい内容を明確にし具体的な改善計画に結びつけることで、なお一層のサービスの質の向上が期待できる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、定期的に会議を開催し、事業所の活動報告や評価の結果、取り組み内容等を報告し、助言を得ている。夏のラジオ体操の場所の提供などは、会議の中での要望を受け実現した取り組みである。また、会議の開催場所を、利用者の生活空間（居間など）に設定することで、利用者も気軽に参加できるようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所へ出向き、互いの情報交換や近況報告、相談などを行っている。また、空知中部広域連合主催の介護支援専門員調整会議に参加したり、近隣の地域包括支援センターを訪れ入居状況等の報告も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個別に手紙・写真・金銭管理帳を家族に送付するとともに、事業所の運営や活動についても報告している。法人の方針として、緊急時に限らず、どんな些細なことでも家族に連絡・報告する体制になっている。また、以前は介護記録を毎月送付していたが、現在は希望する家族にのみ送付し、面会時に閲覧できるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の受付担当窓口や外部機関の申し出先を、利用開始時に説明している。また、面会時等の何気ない会話の中から、家族の意見・要望・疑問等を汲み取り、検討・対応することで、ケアの質確保や運営の改善につなげている。また、2、3ヶ月に1度、家族同士が集まり交流を持つ機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職の際は、十分な引継ぎを行っている。また、居室担当を2名体制にすることで、利用者へのダメージを防ぐ努力をしている。日ごろから、ユニット間や同一法人内の事業所間で、職員と利用者の交流があり、交代や異動の際も、馴染みの関係作りをスムーズに行うことができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、新人研修や継続研修を計画的に行っている。内部研修のテーマについては、学びたいことが学べるように職員の意見を反映している。また、週に1度学習会を行い、職員それぞれが1週間の仕事を振り返り、学ぶ機会を設けている。外部研修に関しては、全職員に周知して、希望者が参加し、内容について会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケアネットワークやグループホーム協議会を通して、相互訪問・勉強会・研修会や親睦会等を行い、互いに向上するよう取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面談・事業所見学・自宅への訪問等を通し、事業所の雰囲気や職員・他の利用者との馴染めるように、多くの場面を設定し、本人が納得の上でサービスを利用できるようにしている。本人が安心して、家族も宿泊するなど、家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、調理や畑仕事等で利用者から教わることが多い。また、利用者の得意分野を活かせるように場面設定することで、教え、教わりながら、互いに協働し、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりが、その日をどのように過ごしたいかを、会話や様子等から把握するように毎朝のかかわりを大切にしている。意思の疎通が困難と思える場合でも、本人の表情・仕草・生活歴・家族からの情報を活かして、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には、日ごろのかかわりの中から意見や要望を聴き、職員一人ひとりが利用者の目線で生活全体を観察するとともに、事業所独自の方法で日々モニタリングを行い、ミーティングやケア会議等で職員が話し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を日々モニタリングし、効果等を評価するとともに、職員の利用者に関する情報・気づき・アイデアを基に、日々話し合っており、変化の兆しには予防的に対応するなど、実情に即した見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診や買い物、ドライブなど、本人や家族の希望に沿って柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所前の病院が往診医であるとともに、本人や家族が希望する医療機関に受診が可能である。かかりつけ医のほか、近隣地域の医療機関とも、適切な医療を受けられるよう連携を図っている。受診や通院は、本人や家族の希望に応じて対応している。家族が受診や通院の対応を行う際は、事業所から経過などの情報を書面にて医師へ伝達している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応の指針を作成し、本人や家族に説明し、同意を得ている。また、意思確認を段階的に行い、本人・家族・担当医等の関係者と話し合うとともに、事業所としての支援方法も話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の同意書があり、取り扱いについての十分な説明を行っている。また、利用者に対し特に排泄等の対応や声かけに配慮している。個人記録等は個別に分けて管理し、他の家族や外来者に情報が漏れないよう配慮している。ミーティング等を通し、職員の意識向上を図るとともに、全職員で日々のかかわりに注意し、プライバシーを損ねない対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の会話や本人の様子などを通し、その日をどう過ごしたいかを本人と相談しながら、希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好調査を行い、本人の好む食材と調理法で提供できるよう配慮している。必要に応じて個別メニューに変えるなど、できるだけ希望に沿った提供をしている。週に2～3回、近郊のスーパーへ買い物に出かけ、食事作りや片付けなどを職員と協働で行ったり、畑で育てた野菜を収穫・調理することで、食事に対する楽しみにつながるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	就寝前の入浴など、本人の希望に沿って自由な時間に入浴ができるよう支援している。入浴剤で雰囲気づくりをしたり、職員と一緒に入浴し背中を流すなど、安心して入浴できるように対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や習慣を把握し、畑仕事や調理、大工仕事で巣箱を作成するなど、力を発揮できる場面を作っている。また、事業所に隣接する道の駅のイベントへの参加や、近隣施設への外出などで、気晴らしができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの習慣・好み・希望に応じて、戸外に出かけられるよう支援している。外に出ることを遠慮したり、不安を感じる利用者に対しては、外に出るための目的を持ってもらったり、他の利用者が楽しく活動する様子を見てもらうなど工夫して、本人の意思で戸外へ出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	寄り添いケアや目配りを徹底することで、鍵をかける必要のない体制を作っている。利用者が外出しそうな様子を察知した時は、さりげなく職員から誘い出すなどしている。安全面に配慮しながら、開放感のある生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に避難訓練を実施している。災害時に地域協力が得られるよう、運営推進会議を通じて働きかけるとともに、会議開催に合わせ避難訓練を実施し、その様子を地域住民に公開し、より一層の働きかけを行っている。職員は、救急救命講習や応急手当等の訓練を行い、緊急時対応マニュアルも整備して周知徹底するなど、実際場面で対応できるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者の食事・水分摂取量を把握している。バランス良く摂取できるように、嗜好品をメニューに採り入れ対応している。メニュー表についてボランティアの栄養士よりチェックを受け、アドバイスを得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	熱帯魚等を飼い家庭的な空間を演出するとともに、光・温度を調整し、季節ごとの装飾等に工夫するなど、居心地良い空間作りを行っている。居間のベランダ部分に椅子を置いて作ったスペースは、人の気配を感じながらも、少人数で外の自然を眺めながらゆったりとくつろげる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器や洋服、たんすやベットなどの家具、仏壇や位牌など、馴染みの物を持ち込み、その人らしい暮らしが継続できるよう配慮している。家族の写真や贈り物等を飾るなど、利用者の居心地よさに配慮している。		

※  は、重点項目。